

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 8 月 6 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26244002

研究課題名(和文) 宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の調査と研究

研究課題名(英文) Research and investigation on the Ming edition of Daoist Canon mainly focusing on the Canon in the Imperial Household Library Japan

研究代表者

横手 裕 (YOKOTE, YUTAKA)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：10240201

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 29,300,000円

研究成果の概要(和文)：本邦の宮内庁書陵部に所蔵される道蔵について、三洞四輔の七部全体を対象とし、各巻ごとに書誌情報等を記載した目録を作成した。またこの道蔵の由来や現在の保存状況、他の道蔵との比較により明らかになったこの道蔵の特長と従来の通行本の問題点等について、報告を作成した。さらに旧窪徳忠氏所蔵の道蔵など国内の他の道蔵や、フランス国立図書館所蔵の海外の道蔵の調査もまとめた。あるいは道蔵と関連の深い国内の仏蔵(大蔵経)についても初歩的な調査を行った。これらの成果は、最終的に冊子体の目録『宮内庁書陵部所蔵道蔵経目録稿』、および研究報告書『宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の調査と研究』に総括した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界に現存する個別の道蔵のセットについて、各巻毎に具体的な書誌データを盛り込んだ目録を作成することはこれまで行われていないので、本研究は世界的にも例がない初の試みであり、今後世界各地に残る道蔵を調査してゆく上での第一歩になったと考えられる。

また、道蔵は道教のみならず様々な分野の文献を含んだ中国文化研究の資料の宝庫であり、この道蔵へアプローチする道筋を多角的に拡張したことは、中国研究全般に対して幅広く意義を有すると言えよう。

研究成果の概要(英文)：An investigation on the Daoist Canon in the Imperial Household Library of Japan was performed by compiling a catalogue which contains the bibliographical information of each volumes in all of Three Caverns and Four Supplements. In addition, an investigation report on the history, the preservation condition of the Canon, its merits as well as the demerits of the popular version of Daoist Canon by comparison among various versions of Daoist Canon, was completed. Furthermore, preliminary firsthand investigation on the other Daoist Canon in and outside Japan, as well as the closely related Buddhist Canon (Tripitaka) in Japan was also completed.

The findings above were published in the booklet form report on the "Research and investigation on the Ming edition of Daoist Canon mainly focusing on the Canon in the Imperial Household Library Japan".

研究分野：中国哲学

キーワード：道蔵 道教 大蔵経

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

道蔵は中国の歴代の王朝で作成されてきたが、元朝以前のはほとんど現存しない。今日まとまった分量が残るのは、明朝の正統年間に完成したいわゆる正統道蔵である。この明版の道蔵も残存数は多くはなく、その存在が比較的知られているものとして今世紀初頭まで、北京白雲觀旧蔵の中国国家図書館所蔵本、上海白雲觀旧蔵の上海図書館所蔵本などのほか、フランス国家図書館所蔵本、そしてわが宮内庁書陵部所蔵本があり、全世界で僅か4、5セットが話題にのぼるくらいであった。このうちの北京白雲觀旧蔵本が影印されて通行し、20世紀より一般的に「道蔵」として研究者等に利用されてきた。

わが国に残る宮内庁所蔵本については、江戸時代に幕府の御文庫に収蔵されていた時から知る人ぞ知る貴重書であったが、近代以降最初に経典番号付きの道蔵目録を作成したフランス人宣教師 Wieger にも現存する道蔵として北京の白雲觀とともに東京の図書館(宮内省すなわち現在の宮内庁)のそれが挙げられるなど(Léon Wieger, *Taoïsme*, s.n., 1905, p5)世界的にも知られるようになっていたようである。昭和になって宮内省図書館編『図書館漢籍善本書目』(昭和5年)のち宮内庁書陵部編『図書館典籍解題』(昭和35年)に概要の紹介が行われ、また宮内庁書陵部編『和漢図書分類目録』(昭和26年)の哲学・道家類に『道蔵経』4115冊460函として各函ごとに現存する経典名が掲載された。かつてこの道蔵の調査を試みた窪徳忠によれば(「宮内庁書陵部所蔵の道蔵」、『東方宗教』7、および「涵芬楼影印本道蔵校勘記」、『東方宗教』10)北京白雲觀本と比較して書陵部本は別系統のものと思われるほど異なっており、前者が全体として清朝の道光二十五年の重修を経たものであるのに対し、後者は万暦版も混じるが大部分が正統版のままであると思われるなどとしている。さらに後者は図版が精密であること、中国人と日本人の両方の補鈔があることなどの違いが述べられている。このように、宮内庁本道蔵は非常に貴重な資料的価値があることが示唆されていた。窪氏の後、柳存仁「道蔵刻本之四個日期」(『歴史における民衆と文化 酒井忠夫先生古稀祝賀記念論集』、国書刊行会、1982年)にも考察があり、窪氏とはやや違った論じ方がされていて意義深いが、残念ながら短時間の日本滞在の見聞録となっている。その後、これら以上の詳細な調査を加えた報告は現れなかったように思われる。

筆者は、平成17年より5年間をかけて東京大学総合図書館所蔵の明版嘉興大蔵経の調査を行った。その成果として、平成22年9月に『東京大学総合図書館所蔵嘉興大蔵経 目録と研究 目録篇』、『同 研究篇』が完成した。この調査活動を通して筆者は国内に存在する大蔵経については仏教研究者に注目されて陸続と目録が作られている現状を知った。これらのさまざまな目録に目を通しつつ、同じ大蔵経であっても、伝来や補修の経緯等により内容はそれぞれ甚だしく異なっている実情に驚き、個別の大蔵経目録を作成する必要性を深く理解した。そして筆者の専門領域である道教研究に関して、調査の滞っている宮内庁本道蔵についても、是非詳しい調査研究が必要であるとの認識をもつに至った。

## 2. 研究の目的

本研究は、本邦の宮内庁書陵部に所蔵されている明版の正統道蔵について、詳細な書誌情報を記録した目録を作成し、今後の学術研究において有効に利用してゆく道を開くことを主要な目的とした。また、あわせて日本と海外に残存する明版道蔵についても出来る限り調査を行い、それぞれの由来や作成時期、宮内庁本道蔵との関係についても検討を行うこと、さらにこれらの調査で明らかになった道蔵の刊行に関わる情報と、同時代に作成された仏蔵(仏教大蔵経)の情報とを対照し、明代における道蔵の刊行・重修等の具体的経緯についても考察を加えることを目指した。

### 3. 研究の方法

以上のような経緯で、筆者は宮内庁本道蔵の調査に着手することになった。この調査は、次のような2段階に分けて行われた。

(1) 第1段階：道蔵は膨大な分量があり、一度の科学研究費補助金期間で何の準備もなく全体の詳しい調査を完了することは基本的に不可能と言える。そこでまず、道蔵全体を調査してゆく場合の適切な予算規模や人員設定等を考えるための予備調査を兼ねて、道蔵を構成する三洞四輔すなわち洞真部、洞玄部、洞神部、太玄部、太平部、太清部、正一部の全7部のうち、最初の1部である洞真部のみを対象とする調査を計画した。これを平成23～25年度(2011～2013年度)の科学研究費補助金事業(基盤B)に申請し、幸い採択していただくことがなかった(課題番号:23320008)。

この期間に洞真部の全経典全帖(全巻)について、刊年を記す龍牌の刊記、題識、印記、補鈔、扉絵の有無等の最重要の情報、および版式、紙質、寸法等について、バリエーションを出来る限り多角的に確認する作業を行った。その結果、通行する北京本道蔵テキストの長大な欠損部分を補える部分の発見など数々の重要な成果が得られた。また中国大陸やフランスへ赴いて現地の道蔵を実見し、かつ関連情報を収集した。その結果、現地研究者の教示や、あるいは次々に入手した各地図書館の蔵書目録などから、中国大陸やロシアなどに、合わせて少なくともまだ10セット前後は別の道蔵が存在することがわかった。

以上の宮内庁本の調査と平行し、日本国内に散在している明版道蔵の個別文献についても網羅的な情報収集と調査を試みた。さらに世界各地に残存する道蔵について、それぞれの由来や作成時期、そして宮内庁本道蔵との関係についての考察にも着手した。

また、正統道蔵の作成および補修作業は、永楽北蔵をはじめ仏蔵(仏教大蔵経)の作成・補修作業と連動していると考えられるため、国内外に残る明代の仏蔵(官版)にも実地調査を加え、現物比較を行いつつ明朝の仏蔵・道蔵の刊行事業の実態についても考察を進めた。

この間の作業全体の内容を整理すると、下記の4つに分けられる。

#### 宮内庁書陵部所蔵道蔵の原本調査

日本国内に散在する正統道蔵の個別文献の調査、そのおよび書誌的データ等の採録

海外に所蔵される正統道蔵の現物の調査と、宮内庁本との比較

日本に存在する永楽北蔵などの明版仏蔵(官版)の現物の実見と、道蔵の現物との比較検討、および明代の道蔵・仏蔵の作成や重修活動についての考察

(2)第2段階：以上の成果に基づき、さらに宮内庁本道蔵について「三洞四輔」七部全体の調査を行うべく、今回の平成26～30年度(2014～2018年度)科学研究費補助金事業(基盤研究(A))、研究課題「宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の調査と研究」を申請し、再び幸い採択していただくことがなかった。

今回の作業は基本的に第1段階の調査の内容と方法を継承して、引き続き範囲を拡張して進めたものであった。数年間ひたすら地道な作業を続ける期間となったが、しかしいくつかの点で変更や発展があった。特に上記の に関して記しておく。

#### 宮内庁書陵部所蔵道蔵の原本調査

まず初年度、宮内庁本の道蔵の洞真部～正一部すべてについて、紙焼き複写を購入した。第1段階では結局調査対象とした「洞真部」の原本を全て実見するために宮内庁書陵部まで

赴いたが、その経験から5年間では道蔵全体について同様の手間をかけることは到底無理と判断された。そこで、今回はアルバイトをお願いした中国思想や中国古典学が専門の若手研究者諸氏に複写画像を提供して、各自でその画像を観察してチェックする方法とした。方法がやや簡便となったため、ひとまずは期間内に道蔵全てについて基本的な書誌情報を記録することができない、十分に整理されたものではないが、一応の成果として『宮内庁書陵部所蔵道蔵経目録稿』（横手裕編、2019年11月）を刊行することができた。

なお、今回宮内庁書陵部より購入して調査に使用した紙焼き複写は、原本の1函分を1冊として442冊（道蔵経本体439冊＋別本3冊）に製本した。これを東京大学文学部漢籍コーナーに配架し、大学内外の研究者等が利用できるようにしてある。

#### 海外に所蔵される正統道蔵の現物の調査と、宮内庁本との比較

中国各地やフランスの道蔵について、継続して調査が行われた。それぞれ十分な時間がとれたわけではないが、2014年には上海図書館と故宮博物院図書館、2015年には青島図書館と泰安市博物館、2018年には四川大学と四川省図書館、そしてフランスの国立図書館には毎年のように足を運ぶ等々で、各地の状況に応じて書誌情報の収集等が行われた。

#### 4. 研究成果

今回の研究期間中に研究成果として大小さまざまな形で発表してきたが、主要な成果として下記の刊行物が挙げられる。

(1) 『道蔵図録』、横手裕編、科学研究費補助金成果報告書、平成28(2016)年1月

本書は研究期間中に中国の現地調査で得られた道蔵に関する画像資料をまとめたものである。

(2) 『宮内庁書陵部所蔵道蔵経目録稿』、横手裕編、科学研究費補助金成果報告書、令和元(2019)年11月

本書は宮内庁書陵部所蔵道蔵経について、三洞四輔の七部全体にわたり書誌情報も含めて記載した目録である。すなわち、本研究の主要目的であった宮内庁本道蔵の目録作成作業の成果である。

(3) 『宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の調査と研究』、横手裕編、科学研究費補助金成果報告書、令和2(2020)年2月

本書は書名(すなわち本研究の課題名)に示されたように、宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心としつつ世界各地に残る道蔵についてまとめた論文集である。主な内容は次の通りである。

##### 第一部 宮内庁書陵部所蔵道蔵の研究

宮内庁書陵部所蔵道蔵の由来 / 宮内庁書陵部所蔵道蔵の現状 / 宮内庁書陵部にある別本『道蔵経』について / 現行本道蔵の性格とその校勘に関する初歩的考察

##### 第二部：窪徳忠氏旧蔵道蔵について

現状(函・帖・題箋、扉絵・刊記、木記・神像、補写・補修) / 旧窪徳忠氏所蔵道蔵簡目

##### 第三部：日中道蔵閲覧覚書

上海図書館 / 泰安市博物館 / 青島市博物館 / 中国国家図書館 / 四川省図書館・四川大学図書館 / 北京博物院 / 京都大学附属図書館

##### 第四部：フランス国立図書館所蔵道蔵の研究

フランス国立図書館所蔵『正統道蔵』の概要（志野好伸）／フランス国立図書館所蔵『正統道蔵』目録／フランス国立図書館所蔵『正統道蔵』シャヴァンヌ本目録／フランス国立図書館所蔵道蔵の調査についての補足（横手裕）

第五部：明版仏蔵の研究　永楽北蔵と日本

身延文庫蔵『大明三蔵聖教目録』（北蔵目録）について（渡辺真理子）

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 14
2. 論文標題 西村茂樹『小学修身訓』における道德観 西洋と中国のはざま	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理社会学研究	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 横手裕	4. 巻 50
2. 論文標題 茶と道教修行 宋金内丹家の考える茶の功罪	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学芸国語文学	6. 最初と最後の頁 124-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 李ワ書	4. 巻 上冊
2. 論文標題 中古道教至尊神信仰体系之形成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国魏晋南北朝史学会第十二届年会暨国際學術研討会會議論文集	6. 最初と最後の頁 859-875
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 李ワ書	4. 巻 なし
2. 論文標題 儒道関係史裡の中古道教研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国中古史的史実与想像国際學術研討会論文集	6. 最初と最後の頁 397-409
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 渡辺麻里子	4. 巻 3
2. 論文標題 隣松寺蔵『久祥院殿写経』（仮名書き法華経）をめぐると考察 付【翻刻】隣松寺蔵『久祥院殿写経』第一冊（序品第一・方便品第二）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文社会科学論叢（弘前大学人文社会科学部）	6. 最初と最後の頁 136 - 147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 YOKOTE Yutaka	4. 巻 112
2. 論文標題 The Development of Taoist Studies in Japan: With a Focus on the Eleventh to Seventeenth Centuries	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACTA ASIATICA	6. 最初と最後の頁 67-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 渡辺麻里子	4. 巻 1
2. 論文標題 廬山寺談『三大部見聞術聞』の享受に関する一考察	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 弘前大学人文社会学部・人文社会科学論叢	6. 最初と最後の頁 198-222
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺麻里子	4. 巻 38
2. 論文標題 隣松寺蔵『久祥院殿写経』（仮名書き法華経）について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 弘前大学国語国文学	6. 最初と最後の頁 80-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 28
2. 論文標題 対話しているのは誰か 孫璋『性理真詮』解説	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 中国哲学研究	6. 最初と最後の頁 81-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横手裕	4. 巻 なし
2. 論文標題 明清時代の“経ロク三山”	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 第五届中国中日学者中国古代史論壇文集	6. 最初と最後の頁 298-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 渡辺麻里子	4. 巻 63-7
2. 論文標題 談義書における文体と表記	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 58-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 日本未公開道蔵二種初探
3. 学会等名 2019中国渦陽老子道文化国際學術研討会 (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 李ワ書
2. 発表標題 中古道教至尊神信仰体系之形成
3. 学会等名 中国魏晋南北朝史学会第十二届年会暨国际学术研讨会（中国・邯郸）（国际学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李ワ書
2. 発表標題 中国中世道教における「三清」の信仰体系の成立について
3. 学会等名 日本道教学会第68回大会（国学院大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 日本宮内庁書陵部所蔵道蔵の由来和現状
3. 学会等名 《儒蔵》論壇系列学术講座第197講（中国・四川大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 日本に現存する嘉興蔵とその研究について
3. 学会等名 近世東亜佛敎的文献和研究：工作坊暨青年学者研究营（招待講演）（国际学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡辺麻里子
2. 発表標題 寺院資料調査の意義および記家文字資料調査の課題について
3. 学会等名 「室町～江戸期における写本と版本についての総合的研究」研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 日本蔵《道蔵》版本研究
3. 学会等名 招待講演（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 日本宮内庁本道蔵の現状、以及校勘問題
3. 学会等名 招待講演（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 “起信”の主語是什麼？ 透過鈴木大拙英訳本《大乘起信論》
3. 学会等名 The 2nd UTCP-NCCU PHILOSOPHY WORKSHOP（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡辺麻里子
2. 発表標題 『宗要直兼集』について
3. 学会等名 天台宗教学大会
4. 発表年 2014年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 横手裕	4. 発行年 2015年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 350
3. 書名 道教の歴史	

1. 著者名 横手裕	4. 発行年 2016年
2. 出版社 - (本科研費による印刷製本)	5. 総ページ数 55
3. 書名 道蔵図録	

1. 著者名 横手裕	4. 発行年 2019年
2. 出版社 - (本科研費による印刷製本)	5. 総ページ数 304
3. 書名 宮内庁書陵部所蔵道蔵経目録稿	

1. 著者名 横手裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 - (本科研費による印刷製本)	5. 総ページ数 261
3. 書名 宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の調査と研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 麻里子  (WATANABE MARIKO)  (30431430)	弘前大学・人文社会科学部・教授    (11101)	
研究分担者	李 和書  (LI HESHU)  (40784963)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・助教    (12601)	
研究分担者	志野 好伸  (SHINO YOSHINOBU)  (50345237)	明治大学・文学部・教授    (32682)	
研究分担者	K I M J I H Y U N  (KIM JIHYUN)  (20553473)	京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・准教授    (14301)	